

## 授業で使える当館所蔵地図

### No. 88 『5万分の1地形図 大阪西北部』

作成年：1960（昭和35）年・1969（昭和44）年・1976（昭和51）年・1983（昭和58）年・1989（平成元）年・1996（平成8）年 サイズ：42×52cm 作者：国土地理院

• 1960（昭和35）年発行



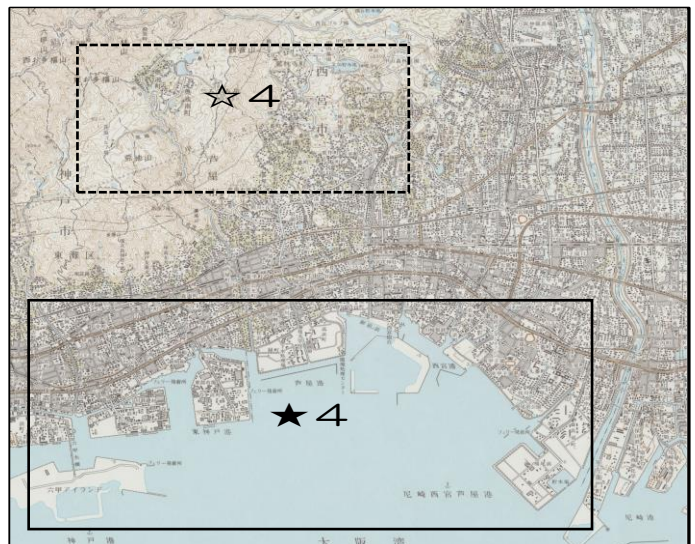
• 1969（昭和44）年発行



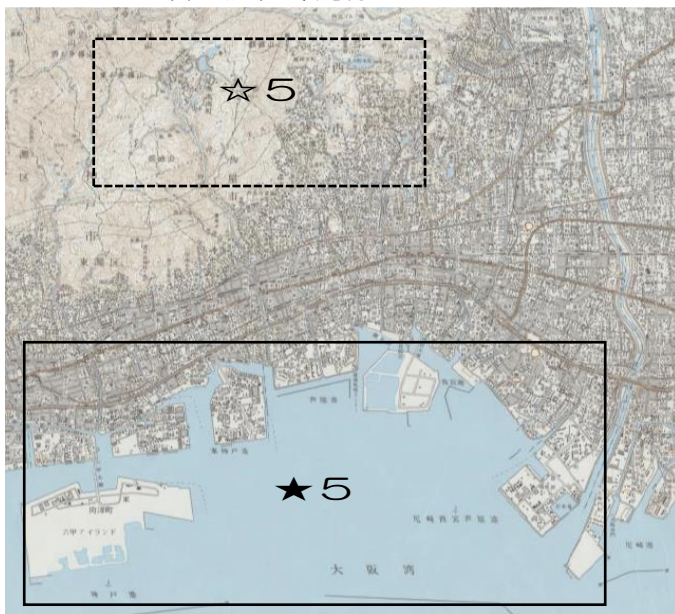
• 1976（昭和51）年発行



• 1983（昭和58）年発行



• 1989（平成元）年発行



• 1996（平成8）年発行



### 【解説】

兵庫県神戸市、芦屋市、西宮市などは、南北を海と山にはさまれて、平地が少なく、市街地の拡大が難しい環境であった。そこで、まちづくりにおいて「山、海へ行く」を合言葉に、海と山を一体化した都市開発が考えられた。高度経済成長期から、六甲山地をけずり、その土砂をベルトコンベヤで海岸まで運び、海の埋め立てに利用した。臨海部には、六甲アイランド、ポートアイランド、神戸空港などの人工島ができ、マンション、ショッピングセンター、大学、最先端の研究施設などが集められた。また、それらを結ぶ大坂湾岸道路西伸部も造られ、大阪西北部や神戸の海岸線は大きく変わった。同時に、神戸市、芦屋市、西宮市などの山地が、ニュータウンとして開発され、神戸市の中心部と鉄道で結ばれ、通勤や通学ができる住宅地が広がった。そのことが、5万分の1の地形図の比較から明らかに分かる。

#### ★海岸線の変化

- ★1…海岸線に人工島は見られない。
- ★2…神戸市から西宮市の湾岸に4つの人工島が造られ始めている。海岸線も埋め立てにより、陸地が広がっている。
- ★3…人工島に施設が増え、工業団地や住宅地になり始めている。湾岸に大規模な埋め立てが行われ、陸地が大幅に広がっている。
- ★4…六甲アイランドが造られ始めている。（このころ、ポートアイランド北部の街びらきが行われる。）尼崎市や大阪市方面の埋め立て地がさらに広がり、湾の面積が狭くなっている。
- ★5…六甲アイランドが、これまでの人工島と比較してもかなり大きいことがわかる。（一時期、六甲アイランドが日本最大の人工島であったが、このころからポートアイランドが南部に拡大したことで、ポートアイランドが最大となる。）湾岸に広がった陸地に工業団地、施設、大規模小売店、住宅地ができ、発展していている。
- ★6…六甲アイランドができ、湾岸を結ぶ大坂湾岸道路西伸部もできた。

#### ☆丘陵地の変化

- ☆1～3…山地を削って、その土砂を利用して人工島や埋め立て地が増えていくのに伴い、湾岸からやや離れた平地となったところが、住宅地として鉄道や道路沿いに拡大していている。
- ☆4～6…六甲山の鈴蘭台などに新たなニュータウンが見られるようになる。

### 【利用の例】

- 中学校社会科第2学年地理的分野の「日本の諸地域の学習・近畿地方」で、「人口や都市・村落を中核とした考察の仕方」について活用できる。時代の移り変わりから、神戸のまちづくり、六甲アイランド、ポートアイランド、ニュータウン、「山、海へ行く」などを、地理的な見方・考え方を駆使して捉えることができる。
- ニュータウンが形成されたのが1980年前後であることから、当時のニュータウンが、現在は急激な高齢化などの課題に直面していることに気付くことができる。（高齢化率や人口構成が分かる補助資料を準備するとより効果的になる。）
- 身近な地域、校区の地形図（1万分の1や2万5千分の1がよい）を授業導入として活用することで、地形図の活用や課題の考察がしやすくなる。生徒は、興味をもって自分たちが住んでいる地域移り変わりについて地形図を活用して知ろうとしていた。